

〈報告〉

## 言語教育センター主催 第2回英語暗唱大会 大会報告および今後の課題

濱奈々恵、銅堂恵美子、ジョセフ・マイオール、パトリシア・サボン・メラス

### 要約

西南学院大学では2013（平成25）年度から、毎年冬に言語教育センター主催による英語暗唱大会を開催している。今年度も昨年度と同様に12月の第1水曜日に大会を実施することとし、教職員が一体となって大会当日まで、運営に関するミーティングや出場者への個人指導を重ねた。本稿は英語暗唱大会までの事前準備・事前指導の様子、大会当日の様子、そして学生から集めたアンケート調査の結果を分析・考察し、来年度以降の大会に活かすための報告である。

### 1. はじめに

言語教育センターでは、2013（平成25）年度から毎年冬に英語暗唱大会を開催することとなり、今年度で2回目の開催を終えた。この大会を計画し、実行するにあたっては主に3つの経緯がある。西南学院大学には「英語で何かを話したい」と思っている学生が多く、実際、本センターで実施している語学実習には毎年、英会話への参加希望者がかなりの割合を占めている。ところが実際に英会話のコースを始めていくと、自分で文章を組み立てられる学生とそうではない学生が混在しており、場合によっては自信のなさから発言そのものを躊躇する学生も出てくる。そこで、第1に「英語の会話やスピーチは苦手だが、上手になりたい」と思う学生に、英語で話すことに慣れてもらうこと、第2に本学院ではESS主催のスピーチコンテストがあるため、本センターではこのコンテストとは異なる大会を開催すること、第3に本センターでは2009年度から中国語暗唱大会が行われていたため、同様に英語でもスピーチではなく暗唱を主とした大会を実施することとなった。

英語暗唱大会は2部構成となっており、それぞれの部における参加資格者を以下のように設定している。

第1部：英文学科、外国語学科英語専攻以外の学生

第2部：①英文学科、外国語学科英語専攻の学生

②英文学科、外国語学科英語専攻以外で、長期間（3か月以上）海外滞在経験のある学生

③その他希望する学生

それぞれの部に対して、暗唱課題に映画の一部、フィクション（オリジナル）とノンフィクションの一部、そして実際に著名人が行ったスピーチ原稿の一部を用意した。各部門の

課題文は、第1部で300語以内（3分程度）、第2部で450語から500語以内（5分程度）とし、分量の統一を心掛けた。

## 2. 事前準備と事前指導

第2回英語暗唱大会を開催するにあたって、今年度は以下のようなスケジュールで進めた。

7月31日	第1回ミーティング【大会実施の趣旨、スケジュール確認】
8月28日	第2回ミーティング【暗唱課題決定】
9月18日	後期授業開始
9月25日	参加募集受付開始（参照：資料1）
10月24日	参加募集受付終了
10月27日	第3回ミーティング【出場者選抜、決定】
10月28日	出場者発表
10月29日	指導スケジュール配布、指導予約開始
10月31日	出場者を対象にした説明会
11月4日	個人指導開始（～28日まで）
12月3日	第2回英語暗唱大会実施

今年度は後期授業開始から1週間を「英語暗唱大会の宣伝期間」と位置付けた。本センターに所属する教員はもとより非常勤講師にも協力を仰ぐため、各講師のレターボックスに本大会に関する資料を投函して、昨年度以上に宣伝活動を行うことに努めた。9月25日から約1か月にわたって募集を呼びかけたところ、出場許容人数を超える応募があったため、第3回ミーティングにおいて各部門のレベルや趣旨に合う学生を選抜（第1部13名、第2部12名）し、10月28日に出場者を発表した。昨年度はこの後に指導スケジュールを配布して個人指導を開始したが、指導を一度も受けることなく、またルールを把握せずに大会に出場した学生がいたため、今年度は10月31日に出場者を対象にした説明会を行った。

説明会では審査の公平を期すため、指導期間（11月4日～28日）、指導回数（1人2回まで。本センター所属の教員に個人で連絡を取ってオフィスアワーを利用する、または非常勤講師に直接願う）、および指導時間（1回につき20分）に関するルールを出場者に周知徹底した。また発表のルールと審査項目についても事前に情報を伝え、出場者の不安が解消されるように努めた。時間の都合上、説明会に参加できなかった出場者に対しては個別に連絡し、当日に配布した資料を提供した。事前指導については各講師によって対応が異なるが、概ね発音やイントネーションに対する指導が多かったという点で意見が一致した。

### 3. 大会実施

2014（平成26）年12月3日（水）15時30分から、2号館505教室において第2回英語暗唱大会を実施した。第1部については出場予定者13名のうち、事前辞退者が4名、欠席者が1名で計8名、第2部については出場予定者12名のうち、事前辞退者が2名で計10名、合計で18名の出場者が大会に臨んだ。開会式において、再度説明したルールは以下の通りである。

1. 発表を始める前に、名前、学部・学科、暗唱テーマを英語で述べる。
2. 暗唱がストップした場合、2回までヒントをもらうことができる。3回以上になった場合は審査対象からはずれる。
3. 審査項目は8項目（各項目5点）で40点満点とする。審査員3名による審査を受け、120点満点で順位を競う。審査項目は「暗唱度」「内容理解度」「声の大きさ」「速さ」「抑場のつけ方」「発音の正確さ」「姿勢や態度」「表現」とする。（参照：資料2）

当日の審査員は外部の日本人講師1名、本学院所属の日本人講師1名と外国人講師1名の計3名が勤めた。第1部の課題は①“The Dream”（オリジナル）、②“Dead Poet Society”（映画）の一部、③“The Secrets of a Long Life”（ノンフィクション）とし、それぞれ2名、2名、4名の出場者が暗唱した。第2部の課題は①“The Story of English”（オリジナル）、②“Good Will Hunting”（映画）の一部、③“Arnold’s 6 Rules to Success”（アーノルド・シュワルツェネッガーが行った演説）の一部とし、それぞれ1名、4名、5名の出場者が暗唱した。出場者によってはヒントを受けながら暗唱を進めることもあったが、ほとんどの出場者がスムーズに暗唱を行った。およそ2時間にわたる大会の結果、第2回英語暗唱大会の入賞者は以下のように決まった。

【第1部】	1位	児童教育学科2年	【第2部】	1位	英文学科3年
	2位	社会福祉学科4年			外国語学科英語専攻1年
	3位	経営学科3年		3位	英文学科2年

### 4. アンケート調査の結果と今後の課題

英語暗唱大会の当日に、出場者18名に対してアンケート調査を実施した。質問は全部で7項目あり、実際のアンケート用紙およびデータは巻末に資料3および資料4として添付している。ここではアンケート調査の結果を大まかにまとめ、暗唱大会後に教職員で行った反省会での意見も合わせて今後の課題を考察していく。

まず、英語暗唱大会の開催についてどのようにして情報を得たかと尋ねたところ、「ポータルのお知らせ」や「ポスター・チラシ」との解答が圧倒的に多く、昨年度の反省を踏まえた宣伝活動が実を結んだといえる。アナウンスの時期、課題数（数と種類）、課題の長さについてもそれぞれ概ね「適切だった」との解答を得た。暗唱課題については「映画の

セリフ」や「有名人のスピーチ」に興味集中しているため、来年度も引き続き、これらの課題を採用することとした。

オフィスアワーの利用については「時間が合わなかった」という理由で、個人指導を受けなかった学生が多かった。実際、2回の指導を受けた学生が18名中4名、1回の指導を受けた学生が18名中3名いた一方、全く指導を受けなかった学生が18名中11名にのぼった。しかし大会当日の様子から判断すると、出場者はそれぞれ何らかの方法で練習を重ねて大会に臨んでいたと思われる。合計6つの課題文は全て本センター所属の外国人講師が音声ファイルを作成しており、また課題文によってはDVDやインターネットで確認することが可能であった。オフィスアワーを利用して個人指導を受けた学生の多くは、自分で音声ファイルや映像を確認したと話していたため、事前準備において学生に不便は生じなかったと判断している。オフィスアワーを利用した7名の学生に対しては、個人指導の時間(20分)が適切であったか判断してもらった。「適切であった」と答えた学生が4名、一方「短かった」と答えた学生が3名となった。20分という長さを維持すべきか、それとも少し時間を延ばすべきか、検討を重ねたい。

最後に暗唱大会への感想や意見など、自由に記述してもらった。来年度にリベンジを誓う学生、「いい刺激になった」や「達成感があった」という感想を述べた学生など、学生の反応はかなり良かったといえる。当初、暗唱大会の趣旨として掲げていた「英語で話すことに慣れてもらう」という点についても「少し抵抗がなくなった」という意見が聞けたことは大きな収穫であった。

その一方で、大会当日および大会後の反省会において、いくつかの問題が出た。検討の結果出た改善点のうち、以下の6点を挙げておく。

1. 募集用のポスター・チラシに暗唱テーマを掲載し、大まかなイメージを提示する。
2. 言語教育センター入口にある電子掲示板を使って、イベント情報を提供する。
3. 暗唱時間は採点に影響しないため、タイムキーパーを廃止する。
4. 出場者には「ヘルプカード」や「ギブアップカード」で意思表示をしてもらう。
5. 審査員と「ヘルプカード」に対応する人を分ける。
6. 出場辞退者が出ることを予測して、多めに出場者を受け入れておく。

上記6点のうち、3点について述べておきたい。まず「3」についてだが、学生に対して暗唱課題を提示する際に便宜上、語数と「暗唱にかかる時間」も情報として伝えていた。これは各課題のレベルや量のある程度、統一させるための情報だったのだが、昨年度はこの「暗唱にかかる時間」を「制限時間」として設定していた。そのためたとえ暗唱途中であろうと、時間が来た段階で強制的に終了するような措置を取った。これにより、最後まで暗唱できずに終えざるを得なかった学生が半数近く出てしまい、このことが「英語で話すことに慣れる」妨げになる懸念があった。そこで今年度は各部(第1部3分、第2部5分)において出場者に「残り〇分」の表示を提示しながらも、実際は時間無制限で最後まで暗

唱して構わないとした。暗唱時間が採点に影響することがない以上、来年度からはタイムキーパーを廃止し、当日は時間を気にせずに暗唱してもらうこととなった。

暗唱中に内容を忘れた場合、2回までヒントを出すとしていた。ただしその回数が3回以上になった場合、採点対象からはずれると説明していたため、ヒントを出す側もヒントをもらう側もそのタイミングがはかりづらい状況が幾度か生じた。そこで上記「4」にあるように、来年度からは「ヘルプカード」と「ギブアップカード」を用意し、出場者本人に意思表示を促すこととした。加えて、ヒントを出す人はこれまで審査員の1人としていたが、暗唱の「姿勢や態度」を評価しながら暗唱課題の文字を目で追うのは困難であると判断し、上記「5」の通り、来年度からは審査員とヒント係をそれぞれ別の人に依頼することとした。

言語教育センター主催の暗唱大会はまだ取り組み実績が浅く、またセンター内の教職員の入れ替わりも起こりやすいため、手探りの状態が続いている。しかし回を重ねるごとに改善点を見出し、次の年度に活かしていくことでさらに良い取り組みになると考えている。末尾ながら本センターの暗唱大会に理解を示し、お忙しい中ご協力いただいた冬野美晴先生（九州大学芸術工学研究院）、鳥越千絵先生（西南学院大学文学部外国語学科英語専攻）、非常勤講師の先生方、学生スタッフの古賀朱音さん（商学部経営学科4年）、木坂啓亮さん（文学部英文学科4年）、そして勇気を出して暗唱大会に参加してくれた出場者のみなさんに、心から感謝申し上げます。

# 第2回 英語暗唱大会開催!

## The 2nd English Recitation Contest

**2014 年度学内暗唱大会を以下のとおり開催します。  
皆さんの参加をお待ちしています!!**

英語の会話やスピーチは苦手だけど、上手になりたいと思うみなさん。まずは人前で話すことに慣れるいいチャンスです!!

今回の暗唱大会では、映画の中のセリフや名演説、また様々なテーマについて書かれた文章を聴衆の心に届くように発表することを目的としています。

言語教育センターの外国語教員による指導も受けることができますので、自信がない人も安心して参加いただけます。みなさんぜひチャレンジしてください!!

**開催日：2014年12月3日(水) 15:20~18:00(予定)**

場 所：西南学院大学 (2号館 2-505 教室)

参加資格：第1部 ・英文学科、外国語学科英語専攻以外の学生

第2部 ・英文学科、外国語学科英語専攻の学生

・英文学科、外国語学科英語専攻以外で、長期間 (3ヶ月以上)

海外滞在経験のある学生

・その他希望する学生

暗唱テーマ：SAINS ポータル、または言語教育センターHPで確認し選択してください。

(本文・音声サンプルが確認できます。)

**申込み切：10月24日(金)**

申込方法：言語教育センター事務室で申込書に記入して提出してください。

参加者発表：10月28日(火)に言語教育センター電子掲示板、SAINSポータルで発表。

参加者は、後日、詳細を言語教育センター事務室でご確認下さい。

表彰内容：各部上位3名に賞状と副賞を授与します。(参加者全員に参加賞があります。)

応募、問い合わせ先：西南学院大学 言語教育センター事務室  
Tel.092-823-3309  
e-mail: [langeduc@seinan-gu.ac.jp](mailto:langeduc@seinan-gu.ac.jp)

# CONTEST EVALUATION SHEET

Name of Performer: \_\_\_\_\_

Title: \_\_\_\_\_

### Ratings

- 1: Poor
- 2: Below Average
- 3: Average
- 4: Very Good
- 5: Excellent

	Poor	<	Average	<	Excellent
Memorization (暗唱度)	1	2	3	4	5
Evidence of Understanding (内容理解度)	1	2	3	4	5
Volume (声の大きさ)	1	2	3	4	5
Tempo (速さ)	1	2	3	4	5
Intonation (抑揚のつけ方)	1	2	3	4	5
Pronunciation (発音の正確さ)	1	2	3	4	5
Posture and Presence (姿勢や態度)	1	2	3	4	5
Gestures and Eye Contact (表現)	1	2	3	4	5

FINAL SCORE: \_\_\_\_\_ / 40

第2回英語暗唱大会アンケート

今後の英語暗唱大会のために、アンケートにご協力下さい。

差支えなければ、出場した部門と氏名の記入をお願いします。

(第1部・第2部) 氏名: \_\_\_\_\_

- 1) 英語暗唱大会について、どのようにお知りになりましたか。1つお選びください。
1. SAINS ポータルを見て      2. 学内ポスター・チラシを見て      3. 友人に聞いて  
4. 教員に聞いて      5. その他: ( \_\_\_\_\_ )
- 2) アナウンスの時期はどうか。
1. 適切であった      2. 早かった      3. 遅かった
- 3) 課題の数や種類はどうか。
1. 適切であった      2. 多かった      3. 少なかった
- 4) 課題の長さはどうか。(第1部は約3分/第2部は約5分)
1. 適切であった      2. 長かった      3. 短かった
- 5) 暗唱課題として、どのようなものに興味がありますか。(複数回答可)
1. 詩や小説の一部      2. 映画のセリフ      3. 有名人のスピーチ      4. 歌詞      5. ニュース原稿  
6. 新聞・雑誌などの記事の一部      7. その他 ( \_\_\_\_\_ )
- 6) 暗唱大会の前に、オフィスアワーを利用して練習をしましたか?(上限は2回)
1. 2回利用した      2. 1回利用した      3. 全く利用しなかった
- 7-1) 6) で「2回利用した」「1回利用した」と答えた人に質問です。
- 1回の練習時間(20分)は適切でしたか?
1. 適切であった      2. 長かった      3. 短かった
- 7-2) 6) で「1回利用した」「全く利用しなかった」と答えた人に質問です。
- 全く、あるいは1回しか利用しなかった理由は以下のどれですか。(複数回答可)
1. そのような制度があるのを知らなかった      2. 時間が合わなかった  
3. 他の人(先生や友人)を相手に練習する機会があった      4. 1回の指導で十分だった  
5. 音声ファイルや動画・映画があったのでそれで十分だった      6. 指導は全く必要ではなかった  
7. その他 ( \_\_\_\_\_ )
- 8) 暗唱大会へのご感想・ご意見などをお聞かせください
- 

★アンケートへのご協力、誠にありがとうございました★



(資料4)

## 第2回英語暗唱大会 アンケート調査集計結果

設 問	1部	2部
<b>1)開催を知り得た方法</b>		
1. SAINSポータルを見て	4	10
2. 学内ポスター・チラシを見て	4	0
3. 友人に聞いて	0	0
4. 教員に聞いて	0	0
5. その他	0	0
<b>2)アナウンスの時期</b>		
1. 適切であった	7	8
2. 早かった	1	1
3. 遅かった	0	1
<b>3)課題の数や種類</b>		
1. 適切であった	7	9
2. 多かった	1	1
3. 少なかった	0	0
<b>4)課題の長さ</b>		
1. 適切であった	6	9
2. 長かった	1	1
3. 短かった	1	0
<b>5)暗唱課題として興味があるもの(複数回答可)</b>		
1. 詩や小説の一部	1	3
2. 映画のセリフ	6	5
3. 有名人のスピーチ	3	9
4. 歌詞	2	0
5. ニュース原稿	3	1
6. 新聞・雑誌などの記事の一部	1	0
7. その他	0	0
<b>6)オフィスパワーの利用の有無</b>		
1. 2回利用した	1	3
2. 1回利用した	1	2
3. 全く利用しなかった	6	5
<b>7-1)練習時間(20分間)について(オフィスパワーを利用した人に対して)</b>		
1. 適切であった	1	3
2. 長かった	0	0
3. 短かった	1	2
<b>7-2)利用しなかった理由(オフィスパワーを利用しなかった人に対して)(複数回答可)</b>		
1. そのような制度があるのを知らなかった。	1	0
2. 時間が合わなかった。	7	6
3. 他の人(先生や友人)を相手に練習する機会があった	2	0
4. 1回の指導で十分だった	0	0
4. 音声ファイルや動画・映画があったので、それで十分だった	0	0
5. 指導は全く必要ではなかった	0	0
6. その他	0	0
回収率	100%	100%

## 感想・意見

### 【第1部】

- 全部、覚えきれなくてすみません。来年もあるなら、ぜひリベンジさせてください。
- 人前で話すのがとても苦手だったので、克服したいと思い応募しましたが、みんな暖かく、少し抵抗がなくなりました。上手い人ばかりで、とてもいい刺激になりました。ありがとうございました。
- 私は将来、小学校の先生になって英語を自分で児童に教えたいと思っているので、今回、このような機会を与えてもらって本当に感謝しています。緊張もしたけど、思っていた以上に楽しかったし、達成感もあったので、ぜひ、来年も参加したいなと思います。
- 初めはアナウンスを見たあとも参加する気になれませんでした。暗唱練習のために時間を使うなら、他の勉強の時間に充てたいと思っていました。しかし友人に参加するように言われ決心し、練習を始めました。結果的に参加できて本当によかったと思います。こんなにスピーチの練習をしたのは初めてで楽しかったです。
- いい思い出になりました。もっと勉強して英語をペラペラ話せるようになりたいと思いました。
- お互いの練習方法や英語の勉強の仕方、発音のコツなどを共有できるような機会があるといいなと思いました。発表者の皆さん、とても上手で良い刺激になりました。ありがとうございました。

### 【第2部】

- 次は頑張ります。
- 楽しかったです。
- 大学生の目線に合った内容の暗唱課題だともっと良いと思った。
- 緊張しました。
- レベルが高かった。みんなのスピーチを聞いて、とても勉強になりました。
- ネイティブのような発音の人が多くて驚きました。
- この暗唱大会に向けた練習のおかげで、発音の仕方を改めて学ぶことができました。